

なかがわうち

中川内では、

地域みんなが大きな家族。



国道55号の羽根橋東詰から市道北生線を山側に5kmほど上った山間部。豊かな自然に囲まれたところに、^{なかがわうち}中川内小中学校がある。

児童生徒数は年々減少し、現在は13名。

「学校がなくなれば、地域もなくなってしまふ」。そんな危機感を抱いた保護者と保護者OBが、地域おこし協力隊メンバーとも連携して立ち上げたのが「^{きたろうかい}来多郎会」だ。まずは、山村留学や移住促進を目指して、人を集めるためのイベントの企画運営を始めた。

ここには、純で恥ずかしがりの子どもが多い。小1から中3まで全員が兄弟のよう。学校が終わっても一緒に遊んでいる。

メインイベントの運動会は、地域ぐるみで盛り上げる。県外に出た卒業生も帰ってきて参加する、まるで祭りのようだ。

子どもが小学校に入ると、親はみんなPTA役員になる。PTA行事のあとは一杯飲む。一体感が素晴らしい。

活動を一歩進めて、この春、学校の敷地内に「移住体験住宅」を造り募集を開始する。教員住宅を改修して、内装はメンバーのDIYだ。「自然あふれるこのロケーションを気に入ってくれる人はいる。今まではすぐに住める家がなかったので、ここから本番です」

^{なかがわうち}きたろうかい
中川内来多郎会

後列左から、小松博彦(中川内小中学校校長)・岡咲 誠

前列左から、山本徳夫・榊原弘之・山本耕三

室戸じと、 進む。